京都「被爆二世・三世の会」会報

京都市中京区壬生仙念町３０-２
ラボール京都５階
京都原水爆被災者懇談会気付
ＴＥＬ075-811-3203
ＦＡＸ075-811-3213
ＨＰ　http://aogiri2-3.jp

Kyoto Association of 2nd & 3rd Generation *Hibakusha*(Atomic Bomb Survivors)

８月６日(日)ヒロシマの日・キャンドルビジル
－　三条大橋東詰め　－

原水爆禁止２０２３年世界大会　参加者のみなさんからのレポート
山根和代さん／井坂博文さん／堀照美さん／小林こうきさん／平信行さん　２
寄稿　被爆７８年目に想うこと　岡山「被爆２世・３世の会」加百智津子さん　１２
２０２３年度の「被爆二世健診」みなさん受診しましょう　１３
「ようすけ君の夢」再販ご協力のお願い　黒岩晴子さん　１５
増田正昭さん２０２３年個展のお知らせ　１６
会員から会員へ@みなさんからのお便り紹介　１７
本・ＤＶＤ・映画・番組の紹介と交流　１８
「核のごみをどうするか　もう一つの原発問題」
SCRAPBOOK　「刻む　中国出身留学生の８・６　原爆死没者名簿登載へ」（中國）　１９
「『叙事詩広島』素案か　峠三吉の未公開直筆　発見」（中國）
「被爆継承　絵画や動画で試行錯誤」（京都）
編集後記　２１
２０２３年９月の行事カレンダー　２２

核兵器のない平和で公正な世界を
――― 人類と地球の未来のために

原水爆禁止２０２３年世界大会
参加者のみなさんからのレポート

■韓国発「アメリカの原爆投下を裁く」市民法廷運動など　－　世界大会国際会議に参加して

山根和代（右京区）

８月４日と５日に原水禁世界大会国際会議に、オンラインで参加しました。いくつか印象に残ったことを紹介します。主催者によると、４日には１６か国から３００人の参加者がありました。その中で、韓国被爆者のシム・ジンテさん（韓国原爆被害者協会・ハプチョン支部支部長）が、次のような発言をされていました。

私はアメリカを相手に訴訟することがどれほど難しいか、今後も数十年かかるかもしれないという現実をよく知っています。ですから、まず国際民衆法廷を開いてアメリカの責任を問いたいと思います。これを土台にして訴訟の道を見出すことができれば、いくら難しくてもアメリカを相手に直接訴訟を起こしたいです。これが、私が「原爆国際民衆法廷」の原告の一人として参加した理由なのです。私たちの意思を受け入れてくださった「平和と統一を拓く人々」（ＳＰＡＲＫ）の支援と協力により、今年６月に”韓国の広島”と呼ばれている慶尚南道ハプチョンで「アメリカの原爆投下を裁く国際民衆法廷」の準備のための第１ 回国際会議を成功裏に開催しました。私たちはＳＰＡＲＫと協議し、来年２０２４年には韓国人被爆者の苦痛が始まった場所である広島で第２回目の国際会議を開きたいと思います。そして２０２６年にはＮＰＴ会議が開かれるニューヨークで「原爆国際民衆法廷」を開催する計画です。

この「米国の原爆投下を裁く韓国国際民衆法廷の取り組み」は、『反核法律家』１１５（２０２３年夏号）に特集の記事があります。ところで「原爆裁判６０年　現代への教訓」（ＮＨＫニュース解説「時論公論」８／３（木）PM11：40～放映）の清永聡解説委員の原稿を下記からご覧いただけます。

https://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/100/486425.html

判決は原爆投下を「国際法違反」と初めて明言し、大きな影響を残しました。また来年の朝ドラ主人公となる三淵嘉子（みぶちよしこ）さんが判決書に名を連ねておられることも、注目を浴びているようです。

https://www.meiji.ac.jp/history/meidai_sanmyaku/thema/article/mkmht0000002myit.html

ところでアメリカのジョゼフ・ガーソンさん（平和・軍縮・共通安全保障キャンペーン議長）は、「私は広島と長崎の教訓を伝え続け、日本や他

の国のヒバクシャの驚くべき勇気を称えることの重要性を強調したいと思います。ヒバクシャの強烈な被爆証言は、核抑止力に依拠した誤『「安全保障」論を骨抜きにする人類への贈り物なのです。」と発言をされていました。今年はお孫さんを連れての参加でした。

またフランスのロラン・ニベさん（フランス平和運動全国書記）は、「私たちの行動の目標は、ウクライナの即時停戦と外交的な解決、全ての紛争の解決は国連憲章の原則を尊重すること、そしてフランスを始め世界の全ての国々が、ＮＰＴ条約６条を履行し、ＴＰＮＷに署名・批准し、履行することです。広島・長崎で開催される世界大会は、核兵器廃絶と平和をめざす新しい動きが起こる会議になるでしょう。」と発言されていました。

ロシアのオレグ・ボドロフさん（フィンランド湾南岸公共評議会）は、「私たちの国は新しい外交文化を創る”平和大臣”を必要としています。この文化は危機の克服のために、非暴力のメカニズムに依拠するべきです。また私たちは核兵器を禁止するだけでなく、原子力からの段階的撤退が必要です。」と原発の危険性と廃炉の重要性を強調していました。

フィンランドのウーラ・クロッツァーさん（フィンランド平和を求める女性の会／反ＮＡＴＯで団結し平和を求める世界女性の会）は、次のように発言していました。「今年３月、フィンランド平和を求める女性の会（フィンランドでは無法者とみなさ れている）の私たちは、アメリカのＷＩＬＰＦ（婦人国際平和自由連盟）の強力な女性 たちや、世界の各地域の勇敢な女性たちと共に、「反ＮＡＴＯで団結する平和を求める世界女性の会（Ｎｏ ＮＡＴＯ女性の会」を結成しました。今では世界約４０ヶ国に広
がっています。」このようなことは、マスコミで報道されていないと思います。

ドイツのライナー・ブラウンさん（国際平和ビューロー／平和をめざす科学者の会／米空軍基地閉鎖ラムスタイン運動）は、次のような発言をされています。「世界にある憎しみ、中傷、敵のイメージ、戦争などに立向かうには、創造力、勇気、献身、市民的気概が必要です。マハトマ・ガンジー、ネルソン・マンデラ、ベルタ・フォン・スットナー、マーチン・ルーサー・キング、アルバート・アインシュタインの伝統を引き継ぎ、核兵器と戦争のない世界の実現を目指そうではありませんか。」

なお日本であまり知られていないベルタ・フォン・ズットナーの『武器を捨てよ！』（１８８９）ですが、私は友人と和訳し、多くの学校図書館に置かれています。（新日本出版）１３４年前に出版されたのに、現在まさに武器を捨てて、対話・外交・交渉での解決が必要ではないでしょうか。

福岡の高橋さんは、絵画でつなぐ戦争の記憶「原爆体験絵画プロジェクト」について発言されました。
https://www.kyusanu.ac.jp/faculty/geijutsu/news/news-20230731/　をご覧ください。

この国際会議では、マスコミでは報道されない草の根の活動が紹介され、驚いたり励まされたりしました。オンライン参加でしたが、学ぶことが多い充実した内容でした。

■台風6号襲来に抗して2023年原水禁世界大会参加の2日間

井坂博文（北区）

被爆７８年を迎える８月６日（日）、広島で原水爆禁止世界大会ヒロシマデー集会が開かれ、核兵器廃絶にむけた緊急の行動をすべての国の政府に訴える「手紙」を採択。政党代表で参加し、連帯の挨拶をした日本共産党の志位委員長は、日本政府に①「核抑止力」論の呪縛を断ち切る②禁止条約締約国会議に少なくともオブザーバー参加し、被害者支援、環境修復などで貢献する③ＮＰＴ（核不拡散条約）第六条の義務履行を核保有国に迫る、の三点を要求したことを明らかにしました。政府に速やかな実行を求めたいと思います。

同じく６日の広島市主催の平和祈念式典では、広島市長や県知事が「核抑止力」論を批判して脱却することを強調し、日本政府に核兵器禁止条約

の締約国になるよう求めました。一方で、岸田首相は被爆者や各国代表を前にしながら、「核抑止力」論にしがみつき、アメリカの「核の傘」に依存し、核兵器禁止条約に一言も触れないという、世界で唯一の戦争による被ばくを体験した国の首相としてふさわしくない姿勢が際立っています。

また、６日の夜には、三条大橋東詰で京都「被爆二世・三世の会」の呼びかけによる、被爆者と核犠牲者を追悼するキャンドル・ビジルと原爆パネル展示を取り組み、通行する人々にアピール。参加された４０数名のみなさんとともに、一刻も早い核兵器のない世界の実現に向けて、平和への誓いと決意を新たにしました。

その翌日の７日（月）から長崎で開かれる世界大会長崎に京都代表団の団長として参加。１００名を超える参加者のみなさんと京都駅を新幹線で出発、博多駅から貸し切りバスに乗り換え開会総会の会場長崎市民会館体育館に到着。ところがその道中で、台風６号の今後の動向から、９日の平和祈念式典が会場変更し大幅に縮小されること、９日の世界大会閉会総会（ナガサキデー集会）が前倒しで８日午後に変更になることに伴い、８日予定の分科会が終日から午前中開催に変更になることが判明。その結果、京都代表団は８日に京都に帰ることを決定。帰りの新幹線の切符のキャンセルと取り直し、宿や弁当のキャンセルなどの対応を余儀なくされ、開会総会は半分ほどしか参加できず、残念でした。

それでも海外代表のウクライナ平和主義運動事務局長の「正義の戦争などない。ウクライナでの軍拡競争、核脅迫は無謀で愚かなこと」と訴えたこと、特別発言で小林節（慶応大学名誉教授）さんが「日本国民には主権者としてすべきことがある。政府に核兵器禁止条約を批准させること。禁止条約の批准を総選挙の争点の一つにする運動を提案する」と述べられたことが印象に残りました。

８日（火）の半日に短縮された分科会は「原発ゼロをめざして」に参加。日本と世界のあらゆる原発と核兵器が共通して持っている人類の安全と生存に対する危機を打破するために、福島第一原発事故の汚染水の海洋放出に反対し、原発ゼロ、気候危機の打開を求める運動と共同することが呼びかけられ、運動の交流ができました。私の、バイバイ原発やキンカン行動を進める励みにもなる分科会でした。

京都に帰る新幹線の都合で、閉会総会に出席できないのが残念でしたが、参加者の無事と安全を最優先することが大事と考え帰路につきました。

■若い世代への継承と活躍する姿に確信

堀　照美（上京区）

台風の接近が心配される中、８月７日７時３０分に京都駅に集合しました。１００人を超える京都代表団。８時３分発の新幹線のぞみ号になんとか皆着席。１１時過ぎに博多から３台のバスに乗り換えて長崎に向かいました。バスの中では自己紹介と大会に参加する思いを一人一人話しました。若者が多く初めての参加者が多いことがうれしかったです。「本当のことを知って子どもたちに伝えたい」と話してくれた青年教員の言葉が印象に残りました。

バスの中でお弁当食べていると、１３時過ぎ頃に９日の世界大会は中止、８日の分科会を午前中

に短縮し午後は閉会総会すると言うことが発表されました。

１４時少し前に長崎市市民体育館に到着して２階の座席に座りました。１４時から始まった開会総会では冨田宏治さんが「核兵器完全廃絶がヒロシマ・ナガサキを繰り返さない唯一の保証」と訴えられました。日本原水禁被害者団体協議会の田中重光さんが被爆体験を語り「核兵器は人間として死ぬことも生きることも認めない絶対悪。核廃絶しかない。」と言われました。また、ウクライナ平和主義運動事務局長のユーリイさんは「核兵器禁止条約はサダコの折り鶴とおなじ。皆が折れば世界が変わっていく。希望を捨ててはいけない」と訴えられたことが心に残りました。

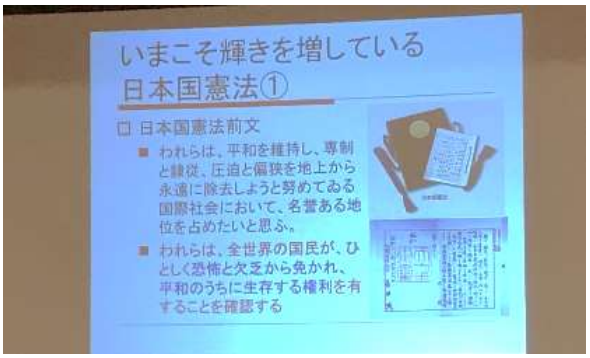
ＡＬＰＳ「処理水」の海洋放出に反対する福島県の代表や東京学生ツアーの若い人たちの訴えに思いがつながっていく確信を持ちました。

その後、京都代表団は台風の影響で閉会集会には参加せずに帰ることになりました。閉会集会に参加できないのは残念でしたが、安全が第一です。

１９時からは教職員平和のつどいに参加しました。京教組からは７人が参加し、長崎の歴史やキリシタンについて学び、全国の教職員と交流しました。

８日は第３分科会「核兵器禁止条約への日本の参加を目指す運動」に参加しました。冨田宏治さんの講演でロシアかＮＡＴＯかではなく、ロシアとそのロシアに便乗して核抑止力を唱えるＮＡＴＯと、核兵器禁止条約を生み出した世界をとらえ、大国の支配に対して核抑止力は認められないと法の支配を確立しようと言われました。またトランプの禁止条約批准撤回を要求する書簡に対して小さな国々は全く揺らがなかった。憲法前文は「恐怖から免れなければ平和ではない」ことが書かれている「核抑止力」は幻想であることも話されました。プーチンには戦争犯罪者として逮捕状が出ているので、ロシアから出ることが出来ないとも。

その後の運動交流では通し行進をした村上厚子さんは、「各自治体訪問をして、Ｇ７は失敗だった。広島市民は怒っていると伝えた。自治体も一緒に取り組んでいく相手としたい」と話され、群馬では、署名をもって戸別訪問をしていると「岸田はおかしい」「岸田は恐ろしい」との声が聞かれ、長野ネットでは、原発問題をきっかけに原水禁とも一緒に運動をすすめていること、埼玉の新婦人では、若い世代を中心に被爆者の思いを語り継ぐ戦争展など発表されました。私も清水寺での６．



９行動を報告しました。（８／１０付赤旗に掲載）

今回の世界大会では、若い世代の活躍があり、確実に核兵器廃絶に向けての運動が受け継がれていることを確信しました。

私もやれるところから出来ることを続けて、一日も早い核のない世界を実現させたいと思います。共に頑張りましょう。

■グローバルな視点から見る世界の核と戦争の危機的状況

小林こうき（宇治市）

昨年の広島での世界大会に続き、４年ぶりに長崎市で開催された大会に参加させていただき有難うございました。

◆若者の参加と報告に勇気づけられた長崎大会

開会総会での二人の青年の報告に感動し勇気づけられた。一人は福島から参加の大学２年の女性の発言を少し長くなるが紹介。

核をめぐる問題に関心を持ったのは東京電力の原発事故で小学１年生の時。外で遊ぶことも、水道水を飲むことも禁止され放射能の不安と恐怖を感じたこと。でも故郷を離れることは考えられなかった。故郷を離れたくなくても離れた人がたくさんいる。多くの人を苦しませ悲しませた原発事故があったのに原発を推進する政府に怒りを感じる。

原発処理水のことを県外の人に話した時に「そんなことなっているの、知らなかった」といわれ、原発事故はもう終わったこととされているようで県外の人と大きな壁があるように感じた。汚染水の海洋放出は、県内だけでなく日本中で、世界で考えていくべきものである。漁業者との約束を反故にし、公正な対話もないまま海洋放出を強行しようとしている政府の姿勢によって県内でも分断が。体験した原発をめぐる分断は核抑止論や戦争のプロパガンダにも共通している。核の傘にしがみつき、大軍拡を推進することが平和ための抑止力と言われる論調に気持ち悪さを感じる。戦争を体験していない私たち世代が「核兵器は許せないと」声を上げることができるのは、「核兵器をなくそう」と声を上げ続けてきた人、平和を願う多くの人がいたから。「挫けそうなときも、仲間がいるから頑張れる。平和と自由をめざす運動を受け継ぐ世代として、たくさん学び、たくさん話し、たくさんの人と上げていきたい」と力強い締めくくりに会場からは大きな拍手が続いた。

続いて発言した東京首都圏の２５人の東京学生ツアーの代表の大学２年生も「核抑止、軍事力で平和はできない」と長崎平和ツアーを準備してきたと。「大会で交流を強め、漠然とした平和や核兵器廃止を確信に変え、学生間での平和運動をつくっていきましょう。」と訴えられた。

◆第一分科会　フォーラム「核兵器のない世界を」に参加

参加した分科会は、核保有国と核依存国（核の傘の国）の代表が登壇しての発言と討論であったが、台風の影響で開催時間も２時間と制限され物足りなさを感じたが仕方ないか。

舞台では、核依存国のアメリカのジョセフ・ガーソンさん（平和・軍縮・共通安全保障キャンペーン議長とロシアのオレグ・ボドロフさん（フィンランド湾岸平和評議会議長）が席を隣で座られ発言されたのが衝撃的で感動させられた。

他の登壇者は、核依存国からフィンランドのウーラ・クロッツアーさん（ノーＮＡＴＯグローバル女性の会）、韓国のイ・ジュンギュさん（韓信大学統一平和政策研究院）、日本から土田弥生さん（原水爆禁止日本協議会事務局次長）で、コーデ

ィネーターは兵庫県原水協の梶本修史さんで進行された。

印象的だった二人の発言を中心に紹介。

（ジョセフ・ガーソンさん）

発言の冒頭で、先の松井広島市長とエマニエル駐日大使の「広島平和公園とパールハーバー国立記念公園の姉妹公園協定について、広島への核攻撃の残酷さを見えなくするものです」と批判。アメリカは、国際的な危機に核の銃を相手方の頭に突き付けて外交をやってきた。バイデン政権は、中国をアメリカの覇権に対抗する唯一の勢力と見ている。中国に対抗するため自国の軍事強化だけでなく同盟国に軍事強化を求め日本に軍事費２倍化を求めている。中国も核兵器の規模を倍に、中国の海軍は米第７艦隊より大きくなっている。このような危機の深まる中で「核兵器禁止条約」は明るい光、１１月の第２回締約国会議へ向けて各国への働きかけ強化を重要と呼びかけ。

（オレグ・ボドロフさん）

物理学者で原子力作業の中で１７年働いていたが、チェルノブイリ事故から離れ、核のない世界を目指す活動に。今日は原子力発電所について話します。原子力発電所が新しい大量破壊兵器になってしまった。チェルノブイリ原発事故から２０年の段階で死亡者の数はロシア・ウクライナ・ベラルーシで２３万７千人、ヨーロッパで４０万人、アジア・アフリカ・北アフリカで３３万人で犠牲者の総数は１００万人になろうとしている。これは増え続けている。これは広島・長崎の犠牲者を上回るとの発言に驚く。２０２２年２月ロシア軍はザポリージャ原子力発電所を占拠。原発が潜在的に汚い放射線爆弾に、２０２２年２月は新しいタイプの大量破壊兵器が生まれた年といえる。長崎で使用されたリトルボーイで長期的被害をもたらしたプルトニュームは出力量の１５％、１㎏。現在、ザポリージャ原発の使用済燃料の中にはプルトニューム２３９が５０㌧蓄積されている。プルトニュウムの半減期は２万４千年、軍隊により稼働中の原子炉が爆破されたら北半球の広大な領土が何千年の長期にわたり汚染される。原子力発電所の乗っ取りは例えで亡くなった現在、地球には３２ヶ国で４５０基の原子炉が、これらが地雷原に化している。今必要なこととして、①平和団体、環境団体、人権団体などとの共同。②非暴力に基づく新しい文化・平和賞の創設。③核兵器禁止とともに脱原発が必要と提起。地球の健全性を守るため手を携えて共に行動をと訴え。

ウーラ・クロッツアーさんは、フィンランドはＮＡＴＯに加盟したが、ＮＡＴＯの拡大は核兵器による威嚇の拡大と指摘。自国の領土を核兵器が通過することは多くの国民が反対していると紹介。

韓国のイ・ジュンギュさんは、韓国のユン政権が「核には核で」の政策を執っている。米韓の「核協議グループ」会合で米国が核を含む能力の提供を確認、米国の核兵器搭載可能な戦略原子力潜水艦の釜山港入港。北朝鮮はミサイル発射で対抗。韓国は韓米日の同盟強化を図ろうとしている。朝鮮半島は危険な状況にあると現状を報告。韓国では、核兵器禁止条約の理解が十分でないが、日本の運動とも連携し核兵器禁止条約の運動を進めていきたいと発言。日本の土田弥生さんは、ＮＰＴ（核不拡散条約）再検討会議に向けて、日本政府に「核兵器禁止条約」への参加を迫る運動の強化を訴えられた。

全体を通して、核抑止論の破綻と「核兵器禁止条約」への日本政府の参加を迫る市民運動に確信を強めることが出来た。大会での学び長崎の体験を伝えていきたいと思う。

◆最後に～父の被爆の地を訪ねて

長崎の原水禁爆禁止世界大会への参加は初めてでした。

私の父は、長崎での体験はほとんど話すことはなく１４年前に亡くなっていますが、終戦直前に１９歳で招集・姫路で入隊。８月上旬に長崎（現在の諫早市）に転属し、１０日に原子爆弾被災直

後の長崎市阪本町辺りに入市し被爆しています。今回、８日の分科会終了後に父が被災者の救援活動の兵隊として任務に就いていたと思われる現在の長崎大学医学部に残る旧長崎医科大学正門門柱（爆心から約６００ｍ）と原爆落下の中心地に建つ碑・原爆殉難者名奉安も台風の影響で短縮され帰京までの短い時間でしたが坂の長崎を真夏の暑さを体感しながら歩いて訪れることもできました。

台風の影響で大会日程が変更され「参加者の身の安全」を最優先に新幹線チケットの変更など大変なご苦労をされた京都代表団の団長・事務局の皆さん、最後になりましたが感謝とお礼を申し上げます。

■第8分科会「平和の危機と気候危機」報告　～　世界大会レポートにかえて

平　信行（南区）

世界大会の第８分科会「平和の危機と気候危機」の運営委員を担当しました。第８分科会では、プロダイバーで環境活動の武本匡弘さんと、横須賀市民９条の会共同代表の岸牧子さんから、基調となる特別報告をしていただきました。お二人の報告の要旨を以下紹介して、世界大会レポートにかえます。

◆武本匡弘さん―「気候危機」の視座をもつ、個人の生活を少しずつ変えながら社会変革を

プロのダイバーによって４０年になる。前半の２０年は、素晴らしい海が地球上のどこに行ってもあった。本当に生物多様性に富んだ海だった。しかし後半の２０年はとんでもないことがどんどん起きてきた。２５年前の１９９８年、地球上のサンゴが真っ白になる事件、サンゴの白化が起こった。１９９８年から１９９９年にかけて地球上のサンゴの６０～７０％が真っ白になり、その後は瓦礫化して死に至る。特に沖縄は本当にひどい状況だった。国連は７年前、２０３４年頃にはサンゴの白化が常態化し地球上から消えてしまうかもしれないと勧告した。沖縄では２０２４年には消滅する予測も出ている。

気候変動で大気が暑くなり海も高温化する。海水温が上がると海流が変わる。風も変わる。ありとあらゆるものが連関して変わっていく。原発も海水を上昇させる要因だ。それまでいろんな活動をしてきたが、１９８５年に太平洋航海プロジェクトというＮＰＯ法人を起ち上げ（ヨットによる航海）、環境活動に一本化して活動を行ってきた。

いろんなこと、現象に直面してきた。海の高水温域に入ると３２℃にもなるところもある。海の熱波が海上竜巻を発生させることもある。八丈島沖合で７本もの海上竜巻に囲まれ、懸命に逃げたこともあった。

中部太平洋のマーシャル諸島でもサンゴ礁被害はひどく、魚がいなくなっている。海水面の上昇は島々の陸地を激しく浸食し、首都マジロでは満潮時には街中が冠水している。マーシャル諸島共和国の大統領によると、今や核の被害よりも、ニュージーランドやオーストラリア、カナダ、アメリカへの難民要請が政策の中心になっていると語られている。核の難民から気候の難民になっている。

これらの原因はどこにあるのか？　過剰に排出されている温暖化効果ガス：ＣＯ２にある。私たちの便利で快適な生活がもたらしている。「気候正義」という言葉がある。誰かを犠牲にして成り立っている私たちのくらしという概念。ヨーロッパでは子どもでも知っている一般化された言葉だ。正義の対義語は不正義、不公正。国家間の正義とは、世界の大国１０ヶ国が地球上の７０％ものＣＯ２をまき散らし、小さな国々の人々のいのちとくらしを脅かしている。世代間の正義とは、将来、地球は人の住める星ではなくなることを指す。こうした視座を持つことが大切だ。

日本国内では磯焼けという状況が広がっている。海藻がまったく育たなくなる状況。日本中に広がるのではないかという予感がしている。海の砂漠化だ。

北極圏の永久凍土の溶解も重大事態だ。永久凍土が溶解するとメタンガスが出てきて、人類未知のウイルスが出てくる。新しいパンデミックの脅威だ。

人類にとって脱炭素化が急務。国際協調で大気温度を産業革命前の＋１．５度に抑えようというのが約束、目標だが、すでに１．１度は上がっている。人間の体で体温が１．１度上がると大変なことだ。地球は今すでに病気になっている。もう元に戻すのは無理だがせめて１．５度までに抑えようというのが目標になっている。

海は海洋プラスチックゴミも深刻な事態だ。太平洋の航海をしながら取水し、マイクロプラスチックの調査もしている。太平洋はゴミだらけ。化学繊維とプラスチックの海。そのプラスチックも気候変動と非常に深い連携を成している。プラスチックは元々化石燃料を元にしている。さらにリサイクルする時にも膨大な熱を出し、気候変動の大きな原因となっている。気候変動とプラスチック問題は一体だ。

気候変動問題を何とかしようという対策の一つとして、神奈川県藤沢市にエコストア『パパラギ』という、プラスチックをまったく使わない生活用品取り扱いの店をやってきた。日本で最初のプラスチックフリーの店だ。海外では普通にある店。プラで作った物は取り扱わない、いっさい包装はしない。日本中から駆けつけられて話題になった。今はワーカーズコープ、労働者協同組合法人となってやっている。お店の商品は量り売り。卵もばら売り、洗剤も量り売り。

商品を売るだけではない。気候変動に興味ある人によびかけて、店でセミナーもやるようにしてきた。“生活者が世界を変える”というテーマを掲げてみんなで勉強を始めた。大事なことは、エコ活動は我慢、辛抱を強いられるのではなく、やれることをやればいいというスタンス。それよりも社会変革が大事。経済システムが変わっていかなくては駄目だよと訴えたくて。毎週行っているセミナーはもう３００回以上になる。核廃絶・平和運動と気候変動問題はまったく一緒だとずーっと訴えてきた。最初はエコとかに興味があって寄ってきていた人たちが、核廃絶と気候問題の連携の意識が生まれてきている。子どもたちもセミナーに来るようになってきていて、将来の環境活動家養成コースのようなものも作ってきている。

気候危機に立ち向かう行動で大事なことは、誰かを犠牲にして私たちのくらしが成り立つことは駄目だという気持ちの醸成。無自覚な加害者を止めさせていこうという姿勢。太平洋の島々、東南アジアの国々、グローバルサウスと言われる国々、アフリカ大陸の諸国・・・・で大変な事態が進行している。これらの地域、国々を犠牲にして我々の生活は成り立っていることは嫌だ、拒否するという気持ちがまず何よりも大切だ。

但し、我慢は続かないから、できることからやろう、生活の中から少しずつ問題を明らかにし、変えるようにして行くことが大事。個人の生活を少しずつ変えるのと、社会変革を同時にやらないと駄目だ。最終的には気候政策を持った政党に投票を、ということになる。その一歩手前が“買い物は投票”だ。バナナを包装してわざわざバナナ

と表示して売っているような国は日本だけだ。どうしてリンゴにクッションのような座布団を敷いて売る必要がある？納豆にどうして醤油を付けて売らなければならないの？等々。

ＥＵでは気候政策を持たない政党はない。ヨーロッパの若い人々は気候危機を推し進めているのは資本主義経済だと気付き始めている。気候危機と平和の危機は同じだと気付き始めている。気候危機も平和の危機も“すべての軍事行動は地球を破壊する”というキーワードで一致する。

たとえば、辺野古の新基地建設の大量の埋め立て土砂はどこから運ばれているか。軍事行動、軍事演習にどれだけのジェット燃料が費やされているか。マーシャル諸島の核廃棄物処理場問題等々。気候危機に国際協調で立ち向かっていかなければない時、ウクライナ戦争は国際協調できない事態を作り出し、とても深刻。

人類は今二つの深刻な危機を迎えている。それは気候危機と平和の危機。どちらも人間の社会経済活動が原因であり、すべてが連関している。絶望的な気持ちになっても、人間はおろかな過ちを犯してしまうけども、それでもその過ちを修正しようとするのも人間。

これまで核廃絶運動を頑張ってきた人たちは今のままでいいのです。その上で少し、できることから生活のあり方を変えていけばいい。核廃絶・平和運動をやり続ければ、必ず気候危機の問題にもつながり生きてくるはずです。

誇りを持っていきましょう。そして希望への道を求めていきましょう。

［質疑応答から］

１、気候市民会議。ヨーロッパでは盛んに取り組まれている。日本では実験的に、札幌、厚木、川崎、東京の杉並区などで始まっている。カジュアルにやることが大切だと思う。たとえば、カフェを使ってやるとか・・・・。

２、気候問題というとどうしても話が難しくなり、敷居が高くなりがち。もっと簡単に有害なモノをなくしていくなど、とりくみを広げていくにはどうすれば。
エコストアで買い物するにしても、「日本人がちょっと昔に戻ってみる」ことが大切。量り売りなども昔はみんなやっていたこと。
気候変動によって、世界中にたくさんのことが起こっている。酷暑、猛暑のイメージだけから気候変動の包括的な理解をしていく姿勢が必要。次なるパンデミックの脅威もそう。
自分の話をいつもきちんと聞いてくれる人から、そうした人を少しずつ増やしていくようにする。長く、したたかに、朗らかに取り組んでいきたい。

３、エコ商品はすごい高いというイメージがあるが。
無理をしないでやれる範囲からやっていくことが必要。そういう人が増えてくると社会の空気感が変わってくる。社会のしくみが変わらないといけない。個人の生活変化、自己責任に負わせているとできない。できることを少しずつやりながら、社会を変えていく声を上げ続けていく、両方やっていくことが必要。

◆岸牧子さん―“横須賀を再エネ１００％の街に”～社会の大きな変化を確信に

私は横須賀で一主婦として大勢の人たちと一緒に平和運動を取り組んできた。

横須賀とはどんな街か。米軍基地があって原子力空母のドナルド・レーガンの母港。自衛隊基地もあって自衛官の人たちとも一緒に暮らす街。世界の中で他国の空母を母港にしているのは日本の横須賀だけ。ロナルド・レーガンは２基の原子炉を積み、２基の原子炉は福島第一原発の一号炉とほぼ同じエネルギーがあると言われている。横須賀は３８万の人口で、米軍基地は街の真ん中にある。原子力空母がひとたび事故を起こすと空母から半径５㌔のところに２０万人が住む。保育園も小・中・高校も大学も病院もある。事故が起きると半径８㌔の人たちはほとんど全員死亡というデータもある。

私たちの普段の活動は２０１５年の安保法制閣議決定をきっかけに始まった。全国で無数の反安保法制実行委員会が作られたのを契機に、横須賀でも「戦争に行かさない・誰一人行かせない横須賀オールズ」という超党派の集まりを結成した。

２０１５年から毎週土曜日の午後４時～５時、スタンディングを続けている。横須賀の自衛隊は他と違って防衛大学校など学生、生徒が多く、土曜日の午後に学生たちが街に出てくる時間に合わせて、「あなたたちを戦争に行かせない」という思いで取り組んでいる。先日スタンディングが３８４回目を迎えた。自衛隊の学生やその保護者たちの中にも様々な反応が生まれてきている。

横須賀に石炭火力発電所が作られることになって、それに対しても一緒に立ち向かっている。もう一つ、横須賀には核燃料の工場もある。横須賀で作られた燃料棒が福島に運ばれてそれが原発事故につながっている。原発は長い間止められているけどその間も燃料棒の工場は動いていて、私たちはその前でも毎週月曜日スタンディングを続けている。

横須賀に作られた石炭火力発電所は今年６月３０日に１号炉が営業運転を始め、２号炉も来年稼働の予定となっている。どれほどの発電規模かというと、１日に１万トン石炭を燃やし、年間７２６万トンのＣＯ２を排出。これは横須賀市のＣＯ２年間排出量の３．８倍、神奈川県のＣＯ２年間排出量の１０％になる。

以下、多彩な移民の運動の様子を画像で紹介（略）

横須賀の活動の一番のきっかけになったのは。ある地域の３０００世帯の地域アンケートから。火力発電も含むとりくみアンケートをもっと全市的に広めようということになり、人からひとへ伝わって最終的に 25,000 世帯のアンケートになった。4,000 通の返答が寄せられた。このアンケートから一人ひとりが直接参加するとりくみ、運動となり、２０２１年のグレタ・トゥンベリさんのドキュメンタリー映画の上映会につながっていった。上映会は４９の賛同団体でとりくまれ、当日は３回のステージを重ね、８００人以上の人が参加、多くの人に気候危機のことを知ってもらう機会になった。

とりくみは３０代の人たちが中心。価値観や人間関係も様々。ただ、どうすれば本当に豊かな暮らしになるかということを真剣に考え始めているひとがものすごく増えている。絶望するような社会の中で、しかし一歩踏み出してみると世の中はものすごく変わろうとしている、横須賀の街の中にそんな状況が生まれようとしていることを実感する。

気候危機に対して行政がすべきことはハッキリしている。ＣＯ２排出量の削減、再エネ１００％へのシフトだ。先進国では石炭火力発電の完全廃炉をめざしている。日本だけがいまだに新しいものを作ろうとしている。ドイツは再エネにシフトしている国だが、地方自治体でも、たとえばミュンヘンでは２００８年に２０５０年までに再エネ１００％達成を決定している。今９０％まで来ている。

日本が化石燃料に払っているお金は３５兆円。これを再エネ１００％にすると、太陽光パネル１４００万戸分を４年間でカバーできる。気候危機は個人の努力とともに国や行政単位で変えていかないともう間に合わない。

私たちは、“横須賀を再エネ１００％の街に”とスローガンを変えて頑張っていこうとしている。

気候危機問題と軍事問題はつながっている。軍事関係のＣＯ２排出量はその国の排出量に換算されずザル扱いになっている。気候危機に対して積極的な姿勢を示しているような国でも軍事は別扱いとしている。先進国はＣＯ２の削減目標と合わせて軍事の縮小・削減計画を持つべきだ。

私たちは戦争と気候危機を止められる最後の世代。気候、人権、ジェンダー平等、暮らし、いろんな人々と手を繋いで運動を強めていきたい。

■寄稿　被爆78年目に想うこと

加百智津子（岡山「被爆２世・３世の会」）

暑い夏になった！全ては人間がわがままに振舞った結果の温暖化であり、人間生活よりも利権がらみの政治経済を最優先させてきたことへのツケがまわったのだろうと、私はこの気候変動を前に考えている。

炎天下であっても、訪れた広島の平和公園には多くの日本人、外国の人、人、人で、平和祈念資料館では入館までの待ち時間は１～２時間超えの時間帯もあったそうだ。それでも待ち続ける人たちに感謝したい気持ちになったと広島の知人は話した。それを、政府筋は、Ｇ７広島サミット効果だとドヤ顔で言ったとか…。

私は、例年なら単独で訪れるこの日のヒロシマに、今年は岡山県原水協が出したバスで参加した。総勢３０名で、子ども連れのお母さん、婦人団体、医療生協関係者、いわゆる活動家、初めて参加する若者が乗り合わせており、行きの車中では、自己紹介と参加するきっかけを、帰りは、参加した感想やこれからどう関わっていくのか意思表明などを交流。一人ひとりの発言は熱がこもり当然長い！「１人５分以内ですよ」と司会がどう制御しても収まらず、帰りは、予定していたＤＶＤ鑑賞の時間はなくなり、広島～倉敷・岡山の２時間半ほどの行程はあっという間に過ぎた。それほど参加者には胸を打つものがあったということだ。

原水禁世界大会ヒロシマデー集会への感想では、サーロー節子さんや被爆者のお話、高知県の大学生による若者がガンバル平和を拡げる取り組み、東京～広島間を通し行進された村上厚子さん、海外代表の知的で心強い発言等など、それぞれから受けた感銘も大きかったようで熱弁は延々続いた。

車中で感じたことがある。「人の話に耳を傾けることの大切さ」だ。日頃、私自身は活動をする中で特段の説明はしなくても、核兵器をめぐる世界情勢や、核廃絶を阻む要因、運動をどう進めていくのか、当たり前のように分かり合えていると思い込んでいないだろうか？果たしてそれでいいのだろうか？バスに乗り合わせた人は、初めてこの日のヒロシマを訪れる人、平和公園内の碑めぐりをして被爆の実相と悲惨さとが身近になった人、核兵器が今地球上に１２，０００発以上もあり、危うい情況に自分自身が置かれていることを知った人が大半であったことから、私たち、活動を牽引している（してきた）者は、常に目線を“いま、ここから始まる人びと”に合わせて、活動の進め方を振り返り、繰り返し、言葉で伝える必要があるのではないかと改めて気づいた車中でのひとときとなった。

被爆２世の私たち兄妹弟は今年もＬＩＮＥで、母の被爆と父の入市被爆体験を想い起し、交換した。子どもの頃から繰り返し母に聞いた被爆体験、母から子守歌のように聴いた「原爆許すまじ」をそれぞれに受け止めてきた。そして今３人とも、神奈川県、京都、岡山で被爆２世・３世の会に所属しているが、その活動スタイルは個性的だ。京都の兄（私と双子）は、平和文化に興味をもち、五行歌で反戦・平和への想いを著わし送信してくる。

『全身に熱波を浴びし　若き日の母　それを過去と云う勿れ　広島を背負い　生きていた人』。

（片山憲二）

神奈川の弟は、研究者らしく文献などからピックアップしたものを読み解くことに余念がない。

岡山で、私は、サーロー節子さんの誇り高いメッセージである「被爆者から受け継いだトーチを高く掲げて」、行動する。形は違えど、３人の目指す先にあるのは“核兵器ノー！”。母が身をもって教えてくれた道筋だ。

２０２３年度の「被爆二世健康診断」（京都府）が始まります

みなさん受診しましょう！

「被爆二世健康診断」は厚生労働省の事業（予算を組み）で、各都道府県に委託して行われるとりくみです。（一般健診の受診費用は無料です）

京都府の場合は毎年、９月中に申込受付、１１月健診実施で行われています。

今年も、　申込受付　９月２２日（金）まで

実施期間　１１月１日（水）～１１月３０日（木）で行われます。

２０１６年から、検査項目に多発性骨髄腫検査が加わりました。

多発性骨髄腫は血液のがんで、一般のがん検診では行われない検査です。

また、今後「被爆二世健診」の検査内容の充実化を求めていくためにも、健診を受ける人が増えていくことが求められています。

この機会に、是非多くのみなさんが受診するようにしましょう！

詳しいことは京都府のホームページ健康福祉部・健康対策課「被爆二世健診」に掲載されます。

初めての人は、下記の京都府の担当口に連絡して受診申込資料を取り寄せて下さい。

京都府健康福祉部健康対策課　疾病対策係

電話　　０７５－４１４－４７３６

Fax　　０７５－４３１－３９７０

一般健診の内容

■問診

■血圧測定、視診・聴診・打診・触診

■血液検査　　白血球数、赤血球数、ヘモグロビン（Ｈｂ）、ヘマトクリット（Ｈｔ）
ヘモグロビンＡ１ｃ
肝機能検査（ＡＳＴ、ＡＬＴ、γ－ＧＴＰ）
ＣＲＰ（血液中のＣ反応性蛋白）

■血清蛋白分画検査による多発性骨髄腫検査（希望者のみ）

■尿検査　　蛋白、糖、ウロビリノーゲン、潜血

精密検査

一般健診の結果精密検査を必要とされた場合、同じ医療機関で精密検査を受診できます。

但し、費用が限度額を超えた場合は超過金額が自己負担になりますので、事前の確認が必要です。

京都府の2023 年度被爆二世健康診断委託医療機関一覧

	医療機関名	郵便番号	所　在　地	電話番号
1	独立行政法人地域医療機能推進機構　京都鞍馬口医療センター	603-8151	北区小山下総町 27	075-441-6101
2	社団法人京都保健会　仁和診療所	602-8373	上京区仁和寺街道御前西入下横町 217	075-462-1510
3	医療法人　幸生会室町病院	602-0031	上京区室町通上立売下る裏築地町 88	075-441-5859
4	公益社団法人信和会　京都民医連あすかい病院	606-8226	左京区田中飛鳥井町 89	075-701-6111
5	一般財団法人日本バプテスト病院連盟医療団日本バプテスト病院	606-8273	左京区北白川山ノ元町 47	075-781-5191
6	医療法人社団貴正会　仁王門村上診療所	606-8361	左京区仁王門通高倉福本町 410	075-751-8080
7	一般財団法人大和松寿会　中央診療所	604-8111	中京区三条通高倉東入桝屋町58番地・56番地	075-211-4503
8	公益社団法人京都保健会　京都民医連太子道診療所健康サポートセンター	604-8454	中京区西ノ京小堀池町 18 番地の 1	075-822-8246
9	一般財団法人京都工場保健会診療所	604-8472	中京区西ノ京北壷井町 67	075-823-0526
10	公益社団法人信和会　東山診療所	605-0952	東山区今熊野宝蔵町 43	075-561-5500
11	医療法人藤原病院	607-8153	山科区東野百拍子町 27 の 1	075-595-3902
12	医療法人貴正会　村上内科医院	607-8041	山科区四ノ宮垣ノ内町 1	075-501-2551
13	医療法人健康会総合病院　京都南病院	600-8876	下京区西七条南中野町 8	075-312-7361
14	医療法人社団　和田クリニック	600-8216	下京区塩小路通東洞院東入東小路町 547-3 明石屋ビル 2F	075-341-0025
15	医療法人啓信会　京都四条診療所	600-8497	京都市下京区醒ヶ井通四条下ル高野堂町 412・414 番地	075-361-3400
16	医療法人岡田医院	616-8347	右京区嵯峨中又町25	075-861-00582
17	社会医療法人太秦病院付属うずまさ診療所	616-8152	右京区太秦堀ヶ内町 1 番地 1	075-863-6152
18	松尾青木診療所	616-0022	西京区嵐山朝月町 44	075-881-9251
19	社会福祉法人恩賜財団済生会　京都府病院	617-0814	長岡京市今里南平尾 8	075-955-0111
20	医療法人徳洲会　宇治徳洲会病院	611-0041	宇治市塡島町石橋 145 番	0774-20-1111
21	医療法人社団　右橋病院	614-8376	八幡市橋本竹園 2 番地 1	075-981-0282
22	社会医療法人岡本病院（財団）　京都岡本記念病院	613-0034	久世郡久御山町佐山西ノ口 58 番地	0774-48-5611
23	医療法人社団岡田医院	619-0201	木津川市山城町綺田神ノ木 86 番地	0774-86-3036
24	学校法人明治東洋医学院　明治国際医療大学付属病院	629-0392	南丹市日吉町保野田ヒノ谷6－1	0771-72-1221
25	公益社団法人京都保健会　京都協立病院	623-0045	綾部市高津町三反田 1 番地	0773-42-0440
26	舞鶴赤十字病院	624-0906	舞鶴市字倉谷 427	0773-75-1920
27	医療法人財団宮津康生会　宮津武田病院	626-0041	宮津市字鶴賀 2059 の 1	0772-22-2157
28	京都府立医科大学附属北部医療センター	629-2261	与謝郡与謝野町字男山 481	0772-46-3371
29	公益社団法人丹後中央病院	627-8555	京丹後市峰山町杉谷 158 の 1	0772-62-0791

『ようすけ君の夢』再販ご協力のお願い

京都「被爆二世・三世の会」のみなさん　こんにちは
「原爆被害者相談員の会」の黒岩晴子です。

この度、『ようすけ君の夢～被爆者と学生がつくった絵本～』を再版することになりました。
長崎で被爆した眞柳タケ子さんの体験をもとに佛教大学の学生が製作した絵本です。
ウクライナでの戦争が続いて核兵器使用への懸念が大きく、被爆者をはじめ多くの方から再版の要望をいただきました。
クラウドファウンディングのプロジェクト「「絵本を通して被爆体験を伝え平和への思いを発信したい」で支援を呼びかけています。
プロジェクトに必要な活動実績には佛大社会福祉学部の「原爆展」の歴史も紹介しました。
ぜひ、ご覧いただきご支援とお知り合いへの紹介をお願い致します。

プロジェクトでは１，０００冊の再版に関わる費用（１２０万円）への募金をお願いしています。
返礼品として再版の絵本や被爆者問題や平和問題の書籍をお送りして役立てていただきたいと思っています。
期間は７月３０日から１０月２０日までとなっています。

ＵＲＬ
CANPFIRE のクラウドファウンディング　https://camp-fire.jp/projects/view/689862

ネットに不慣れな方がおあられたら郵便振替口座もお知らせください。
口座名　「平和ゼミ出版支援基金」　口座番号　(00990-2-280187)

―「被爆者の肖像画で被爆者の生きざまを語り継ぐ」の第６弾―

世代を超えて被ばくに挑む二世たち

今年は「3月の講演」をきっかけに自分のルーツを見つめなおすということで、今まで避けてきた、被爆体験を語らず亡くなった被爆者の母親、父親の肖像画に挑戦したいと思います。その中で親たちの里帰りの思いを込めて広島でも個展を計画しています。
引き続き、被爆者・被爆二世と対話を重ねて… 被爆者とともに、被爆二世の生きざまも肖像画で思いを受け継いでいきます。
これからも絵を通して発信し、描き続けていきたいと思います。ご高覧くだされば幸いです。

2023年 9月24日（日）～30日（土）

11:00～19:00（初日 12:00 から 最終日 17:00 迄）

Gallery Take two

〒604-0941 京都府京都市中京区御幸町通御池上ル亀屋町399 カーサ御幸1F
http://www.gallery-taketwo.com/

オープニング・ギャラリートーク

9月24日（日）12:00～13:00

司会　守田 敏也（フリーライター）
当日会場参加の他、ネット配信でもご視聴いただけます。
オープニング企画 zoom 配信参加申込フォーム
https://forms.gle/M1hVE2uj7y9EoBhX9

配信申込 QR コード

広島での個展のご案内

2024年2月13日（火）～18日（日）
ギャラリー G（広島市中区上八丁堀4-1公開空地内）https://gallery-g.jp/

※駐車場・駐輪場はございませんので公共交通機関をご利用いただくか
お車の場合は近隣パーキングを必ずご利用ください

会員から会員へ　✿　みなさんからのお便り紹介

他地域の２世・３世の方からいただいたお便りも紹介いたします。

■今年も広島市の慰霊式・平和祈念式へ

國府幸代（北区）

今年も広島市の慰霊式・平和祈念式に参列してきました。８月５日（土）の夜、夜行バスで京都を出発し、６日（日）の早朝６時過ぎに広島着。早めに会場に移動して参列に備えます。コロナも明けて今年はすごい参列者の数でした。特に目立ったのが外国の人たちの参列の多さで、日本人も、被爆者やその家族・遺族の人々を圧倒するかのような異様な感じでした。加えて今年の暑さ。とにかくすごい暑い広島の一日でした。

岸田首相のあいさつは相変わらず「核抑止論」で核兵器禁止条約には一言も触れず。一方で松井市長、湯崎知事のあいさつは「抑止論からの脱却」を訴えしっかりとしたものでした。式場の私の隣の席に座られた方(福岡から来られた人)が被爆３世で話が弾みました。後日、私たち会の健康アンケートをお願いしようかと思っています。

式典終了後は、基町高校生の原爆の絵の原画展を見学したり、広島の「平和と戦争展」を訪ねたり、広島在住の友人と一緒に８月６日の広島を体いっぱいに受け止め、行く先々でいろんな人々との交流も深めてきました。

６日(日)の夜１０時過ぎの夜行バスに乗車して広島を出発。翌朝（８月７日）朝６時に京都に無事着きました。夜行バスも最近はとてもよく設備・環境が整えられていて、深夜の弾丸ツアーもまったく気にならない、快適なバスの旅でした。

■今年も広島大学の慰霊祭に参列

奥田美智子(左京区)

８月も下旬というのに猛暑が続き、地球が沸騰しているのではないか？と思う毎日ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年も８月５日～６日と広島に行ってきました。今年の原水禁世界大会は長崎ということもあり、広島で「二世・三世の会」のメンバーに会うこともありませんでした。

８月６日は例年通り広島大学東千田キャンパスでの

慰霊碑に参列し、大学関係者とも一年ぶりの再会で、異動・退職された方もあり、月日の流れを感じました。学長の越智先生も確か来年は退官されるのではないでしょうか。

大学事務局の皆さんに、また、９月３日（日）には京都・圓光寺さんでの『オマール忌』でお会いしましょう、と言って大学を後にしました。

■原発の電気は要りません！

井坂洋子（北区）

今年も届きました。「わたしのでんき」のフルーツ🍉新婦人と農民連で、「原発の電気でなく、自分たちで作ろう」と、２０１６年から「わたしのでんき」運動に取り組み、産直センターの屋根に太陽光パネルを設置。設置費用を５万円コース、１万円コースで募集。５万円コースは１０年間年２回美味しいフルーツが届きます。今年は夏はスイカ、秋はぶどう🍇。この１０年で果物もどんどん値上がりしてるから申し訳ないよう。孫たちも毎年楽しみにしてます。「原発の電気は要りません❗」

本・DVD・映画・番組・その他の紹介と交流

■核のごみをどうするか　もう一つの原発問題　　今田高俊・寿楽浩太・中澤講師　著

紹介　石角敏明（長岡京市）

岩波ジュニア新書
１０５６円(税込み)

日本政府・東電は「なぜ、汚染水」の海洋投棄を急ぐのでしょうか？「核のごみ」をどのように「安全」に保管するのかは、日本だけでなく原発利用国共通の課題であり、原発推進者であれ、即停止を訴える反原発者であれ、「どう処理をするか？」は共通の課題でもある。著者は、日本学術会議が学会内に設けた「高レベル放射性廃棄物の処分に関する検討委員会」の委員長で、学会が提言した内容を分かりやすく説明されている。

「ジュニア新書」のという名が示す通り、中高生を対象に書かれた本だが、私たちが読むべき内容であり、関心を持つべき問題でもある。核のごみの放射能が天然の放射性物質の放射能と同じレベルになるには「１０万年」かかるといわれているが、地震が多く、火山がある日本のような国は、どのように「廃棄物」を安全に管理できるのか、そのためにどうすべきかを考え対策を講じることは、「原発」というエネルギーの恩恵を受け生活をおう歌してきた我々世代の責任だ、と指摘する。国民

の合意を得るために、何をすべきなのか、国の政策・やり方は何がまずいのかを分析し「六つ」の提言をしている。それと共に、世界の対策も紹介しながら、日本で出来ること、出来ないことを明確にする。しかし、このような「対策」が政府に対して提案されていたとは、どこまで知らされていたのか、現在でも「行き詰まり」観のある「高レベル放射能廃棄物」の処分に関する具体策、１２の政策提言を紹介している。

それにしても、なぜここまで政府・電力会社は「急ぐ」のでしょうか？諸外国の取り組みと比較してみると、そのことがよくわかる。国民がこの提案をじっくり読み、腰をすえて論議することが今こそ求められているのではないか、「急いてはことを仕損じる」といわれないように。

Scrap book

■刻む　中国出身留学生の８・６　原爆死没者名簿登載　奉納へ

広島大前身の文理科大・高等師範学校に中国大陸や東南アジアから留学して被爆した人の名前が、広島市の原爆死没者名簿に登載される。「南方特別留学生」８人の被爆は語られてきたが、中国出身者は顧みられることも乏しかった。少なくとも１２人が被爆し、６人が原爆死していた。市は未登載だった計１５人（うち「南方」７人）を記し、８月６日の平和記念式典で奉納する。広島大の調査に協力して登載申請に至った中国留学生の被爆実態を報告する。

１９４５年８月６日当時、中国からの留学生はどれだけいたのか。今回、文理科大・高師が４３年４月に作成していた「外国学生生徒名簿　満州国（三十四名）」の写しが市公文書館にあるのが分かった。市７１年発行「広島原爆戦災誌」の編さん関係者が、東京の善隣学生会館（現・日中友好会館）の倉庫で見つけ複写を送っていた。

日本の関東軍が中国東北部で３２年につくり支配した「満州国」は、日米開戦の４１年も１２５６人の留学生を送出。教育者の育成も図ろうと東京高師や奈良女子高師、広島文理科大・高師の在学生を官費にした。

３４人の各下宿先も記された名簿の欄外には４４年末までの追記が残る。過半数が「休学」「帰国」「除籍」だ。戦況の悪化から「満州国」は帰国を促し、日本政府は同年１２月に「留日学生教育非常措置要綱」を決めて地方疎開を打ち出す。

広島を離れる留学生が増える一方、疎開を兼ねた入・転学もあった。関連資料を突き合わせ、名前や被爆を確かめることができた中国出身者は１２人を数えた。

生き残った人たちの手記や証言を集めると、広島に親族がいない被爆留学生は救護も助け合っていた。日本に戦後もとどまった朱定裕さんは、旧厚生省が９５年被爆者実態調査で募った体験記にこう寄せていた。

「仲間と合流が出来た。（文理科大実験室から）大八車に乗せられ、己斐にある満州国留学生を世話する長谷信夫先生の自宅まで運んで貰（もら）った」。体験記は、東京高師から４５年６月に移り、

東南アジアからの留学生と一緒になった「興南寮」舎監の追悼で結ぶ。４７歳で原爆死した高師の永原敏夫教授である。

中華人民共和国が４９年に誕生すると東京にいた４人は順次戻った。だが、日中国交正常化は７２年までかかり文化大革命の混乱もあって、健在や検診の願いをつづった手紙が広島の知人に届くのは７６年となる。

その由明哲さんは王大文さんと広島県議会日中友好議員連盟の招きで８１年、広島を再訪。被爆者健康手帳の申請に県は当日交付で応じた。しかし出国すれば援護は失権するとした旧厚生省通達の違法性をメディアも当時は見過ごしていた。

在韓被爆者が起こした訴訟で敗訴した国は２００３年に通達を廃止する。翌０４年、王大文さんは広島国際文化財団の助成で訪れ、被爆者健康管理手当を申請し支給を得た。文革中は「日本のスパイ」とまで攻撃された初慶芝さんは「足が衰え…」と渡日を諦めた。現在、健在かどうかは広島市もつかんでいない。

広島大は６月の登載申請に際し、中国からの留学生は健在や不明の３人を除く９人を申請。市は、１９年死去の通知があった朱さんは既に記していた。「南方」は登載があったマレーシア出身のサイド・オマールさん（４５年９月３日死去）を除く７人を名簿に記す。

日中の研究者でつくる「中国人留学生史研究会」を担う神奈川大の孫安石教授は、「日中両国の険しい関係から登載が政治的に捉えられる恐れもあるが、追悼は人道的なもの」といい、「原爆・戦争被害は日本人だけではないことを見つめる声や行動が広がることも期待したい」と話した。

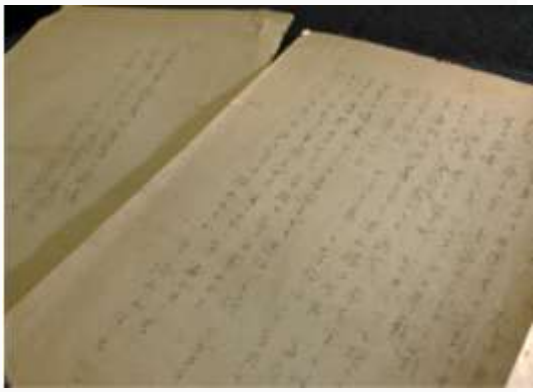
（２０２３年７月３１日　中國新聞）

■「叙事詩広島」素案か　峠三吉の未公開直筆　発見

原爆詩人峠三吉（１９１７～５３年）が、晩年に書き残した未公開の直筆原稿が見つかった。「ちちをかえせ　ははをかえせ」で知られる「原爆詩集」を出版した５２年ごろの原稿で、峠が構想していた壮大な叙事詩に向けた素案だった可能性がある。

原稿のタイトルは「日本の軍国主義的発展と崩壊　原爆によるエポックと米国による属国化　その中でうごめく国民と、闘う力と。」。わら半紙４枚の裏面に鉛筆でつづっている。

峠が得意とする叙情詩的な文体で、戦前の峠家の家族だんらんを回想する場面から始まる。やがて子どもや女性たちも戦争に巻き込まれ、「原子力によるみなごろし」の運命が襲う。最後は「日本の軍国主ギは滅んだか、否　滅びはしない」「日本の血と炎は拭われたか、否　拭われはしない」と締めくくる。



広島大学の岩崎文人名誉教授（７９）＝近現代文学＝は「軍国主義に翻弄（ほんろう）された峠

家の家族史を軸に８月６日の惨禍とその後を描いている」と分析。「激情のおもむくまま記した印象が強い」とする一方、峠が日本の戦前戦後の歴史を題材に構想していた「叙事詩広島」への素案だった可能性があるという。

市民団体「広島文学資料保全の会」の池田正彦事務局長（７６）が、遺族から託された遺品を整理中に見つけた。短編小説の下書きなど約１０点もあり、詳しい調査を進めている。

（２０２３年８月３日　中國新聞）

■被爆継承　絵画や動画で試行錯誤

京都と滋賀では、絵画やインターネット動画などを使って、被爆の実相を継承するための試行錯誤が続いている。

新日本婦人の会京都府本部は、原爆が投下された広島を描いた絵画の展示会を府内各地で開催している。７月に南区で行った展示会では、大やけどを負った被爆者や数え切れない遺体を焼く様子など、基町高（広島市）の生徒が被爆者に体験を聞き取って情景を再現した作品４０点が並んだ。

若い世代に原爆がもたらした悲惨な現実を伝えようと、広島平和記念資料館が所蔵する生徒の作品データなどの提供を受けて開いた。会場を訪れた吉祥院小の永井志保教諭（２５）は「言葉では伝わらないものがある。原爆を学ぶ子たちに見せたい」と話した。

KYOTO-NP.CO.JP
高校生が被爆者に体験を聞き取り描いた絵画も　京都で原爆体験受け継ぐ取り組み｜文化・ライフ｜地域のニュース｜京都新聞

京都「被爆二世・三世の会」は１０年前からこれまでに約１００人の被爆者から体験を聞き取り、２０２０、２１年に証言集「語り継ぐヒロシマ・ナガサキの心」の上下巻を刊行した。滋賀県平和祈念館は、ユーチューブで滋賀在住の被爆者の証言を公開している。

（２０２３年８月６日　京都新聞）

編集後記

▼おそらく今を生きる私たちの中でこれほどの夏の暑さを経験した人は一人としていないのではないでしょうか。連日、連夜、熱暑、猛暑、酷暑に襲われる毎日が続いています。昼過ぎの射るような熱線には恐怖を感じるほど。国連のグテレス事務総長は「地球は沸騰化の時代に入った」と警告を発しました。もはや温暖化などと言っている場合ではない、気候変動ではなく気候危機だ、という意味合いが込められています。温暖化による海面上昇も、永久凍土溶解も、大規模森林火災も、大干ばつと食料危機も、どことなく他所の国のこと、遠い地域のことと感じていた私たちも、気候の異常な事態を直接受け止めざるを得ない時ではないかと思います。この異常さはもはや異常ではない。来年も、再来年も、今年のように、今年以上の“命に関わる暑さに”見舞われていくのだと。平和の危機と合わせて気候危機にも挑んでいきましょう。（平）

２０２３年9月（長月・ながつき）行事カレンダー

月	日	曜	行　　事
９	１	金	防災の日、二百十日　キンカン行動 *関東大震災（１９２３年）、第二次世界大戦勃発(1939 年)*
	２	土	
	３	日	サイド・オマールさんの命日・墓前祭（１０時・圓光寺）
	４	月	
	５	火	
	６	水	６・９行動
	７	木	
	８	金	キンカン行動
	９	土	重陽の節句（菊の節句）　６・９行動
	１０	日	
	１１	月	*アメリカ同時多発テロ(2001 年)*
	１２	火	
	１３	水	
	１４	木	
	１５	金	キンカン行動
	１６	土	
	１７	日	
	１８	月	敬老の日
	１９	火	安保法制廃止をめざす１９日行動（１６時３０分・京都市役所前） 第７８回国連総会一般討論　→　9月３０日(土)まで（ニューヨーク）
	２０	水	
	２１	木	
	２２	金	被爆二世健康診断申し込み締め切り日　キンカン行動
	２３	土	秋分の日
	２４	日	増田正昭個展　→　9月３０日（土）まで（Gallery Take two） オープニング・ギャラリートーク（12 時）
	２５	月	
	２６	火	（国連）核兵器の全面的廃絶のための国際デー 原発賠償京都訴訟控訴審第１９回期日（１４時３０分・大坂高裁）
	２７	水	
	２８	木	
	２９	金	十五夜・中秋の名月　キンカン行動
	３０	土	